

られた。その後、2つのテーマに沿った議論が行われた。まず、いかにして国内意見を集約しコーデックス規格に反映するかというテーマの議論では、基調講演におけるタイのコーデックス対応を受けて、日本では、コーデックス連絡協議会を通じて業界や消費者団体等と国内外の動向を含めて情報を共有していると、日本における対応が紹介された。また、コーデックス対応の課題としては、まず規格策定のベースとなる科学的専門的データの収集・作成、さらにはそうした科学的知見を踏まえて国際的にも展開できる人材育成が課題となっていることが指摘された。人材育成上の課題として語学力の向上が挙げられ、また、コミュニケーションの障壁を取り除く手段としてIT技術の使用についても指摘があった。

国際レベルでの調和の前提となる国際連携における課題というテーマの議論では、他の国際機関との調和が重要であり、例えば、国際獣疫事務局 (OIE)、国際植物保護条約 (IPPC) や分析方法では国際標準化機構 (ISO) との関係が重要であり、国際機関間の整合性を高めるための協調・協力関係の動きが進展していることが指摘された。また、コーデックスでも特に分野横断的な課題に関しては、部会横断的な対処が必要であるとともに、効率的な作業の実現に向けてのメカニズムを考えることが重要との議論が行われた。

当日は、130名(産業界、消費者団体、一般消費者、学識経験者、学生等)の参加者があった。

#### D. 考察

以下では、本年度の第28回CCGPの議論、及び関連して実施した作業原則の見直しの前提となるコーデックス評価報告書にかかわる提案のレビューから抽出された論点や課題についてまとめる。

まず今回の第28回CCGPに参加して発見した重要な点としては、CCGPの組織としての位置づけの理解の必要性である。

会議の冒頭でもWHOの担当者から指摘があったが、CCGPはあくまで、親組織のFAO/WHOのプログラム(下部組織)のコーデックスの、部会であることである。コーデックスの最高意思決定機関は総会でその次に執行委員会が補助として存在する。そうしたことを十分に認識せずに、第28回CCGPでは、TORの修正において自ら新規作業を開始できる項目を追加したり(議題6)、あるいは他の国際機関であるOIEとの連携関係構築にかかわる文書の作成をしたり(議題10)、コーデックス全体にかかわる作業見直しを開始したり(議題12)、といった作業を行おうとしていた。

新規作業の発議は必ず執行委員会のレビューと総会の承認を得なければならない。CCGPが自ら手順の修正や承認の開始をできるようなTORを追加することは、総会の機能と重複した機能を持つことになり、そうしたTORの修正は親組織のFAO/WHOからも認められないとされた。また、同様に、OIEとの関係は、更に上位のレベルで議論されないといけないことが分かった。コーデックスはFAO/WHOの親組織の下にある下部組織だが、OIEは独立した国際機関である。従って、コーデックスがOIEとの関係で正式な文書を作成しようとする、それは国際機関間の問題となり、コーデックスではなく、FAO/WHOの管轄となるということだ。コーデックスの作業管理の見直しにかかわる「評価」についても、FAO/WHOのルールの下でコーデックスは実施しなければならない、それは一部会が論じるのではなく、必ず執行委員会か総会レベルでのFAO/WHOとの検討に基づき、開始されなければならない(結果的にCCGPで議論するにしても)。つまり、CCGPはあらゆる手順上の問題や一般的な問題を議論できる部会であるが、提案・勧告をすることはできても、基本的には、総会・執行委員会ないし他の部会からの照会・付託に基づき作業を行うので、自らの判断で新規作業を開始することは権限を越えてしまうということである。

今回複数の議題において、上述の指摘により、結果的に無駄に終わってしまった作業もあった。例えば、OIE との連携に関する文書は、電子作業部会で 4 回にわたるやり取りに加えて、本会議の事前にも物理的作業部会をするなど相当な労力を割いて作成をしていたものの、本会議の段階で上記指摘により、文書の中身が大幅に削除され、合意文書もコーデックス手続きマニュアルには盛り込まれない文書の扱いになるという結果に終わった。このような基本的な組織構造のあり方については、作業を行う事前に周知がなされるべきだったとの指摘が会議でもなされたが、今回の経験を踏まえて、参加主体からも今後はとりかかろうとしている作業がそもそも CCGP の掌握範囲の作業かどうか指摘や提案ができるように、ルールの認識をしておくべきと考えた。

その他、今回の会議で終了したが、長年にわたって議論されてきた問題と、根本的な解決になっていないために再燃する可能性のある問題として特記すべき事項は以下の 2 点が挙げられる。一つは、役員(議長・副議長)は「国の代表(delegate)」かの問題である。これまでアドホック的な解釈により明確化されてこなかったが、今回、役員も delegate に当たるとの判断が合意されたので、今後混乱は生じないこととなる。加盟国が多様化、増大した今日のコーデックスにおいては、執行委員会の構成は偏りなく極力包括的であることが求められることから、今回の判断はガバナンス上も良かったといえる。

もう一点は、「ステップ 8 問題」である。コンセンサス形成ができなかった際に、総会で留め置きできるというこの規定が保持されることとなったことは、コーデックスの意思決定の柔軟性を保持する上でも重要であろう。ただ、「ステップ 8 問題」の本質は、コンセンサス形成の失敗への対応であり、そもそもコンセンサスが難しい問題にどう対処するかということについての回答は結局得られていない。今回 facilitated discussion の実施により、自由な意見交換がなされたということ

一度終了とされたが、コンセンサスが難しい問題をどう対処するか、議長の資質や会議運営の問題、投票、ファシリテーターの活用など意思決定や合意形成に関する様々な問題の議論とも関連があり、今後作業管理の見直しの中でも再度議論される可能性はある。

コーデックス評価報告書にかかわる提案のレビューからは、以下の点が挙げられる。まずコーデックスの部会・組織構成については、C.1.1(2)で論じたように、コーデックス評価報告書では、過剰な部会はコーデックス全体の効率性を損ねるので、部会構成そのものも含めて見直すべきとしていた。こうした元々の問題意識があったことは、2013 年のスパイス部会の新規部会の設置との兼ね合いで重要な意味を持つ。また、現在のコーデックスの手続きマニュアルには、新規部会の設置についての記載がなく、特別部会の設置についての記載があるのみだ。手続きマニュアルでは新規部会の必要性が認められた場合、まずは特別部会の設置をすべきとしている (Rule XI.1(b)(i) in Criteria for the Establishment of Subsidiary Bodies of the Codex Alimentarius Commission)。こうしたことを踏まえて、現在・将来的コーデックスのニーズなどを視野にコーデックス部会、組織構造のあり方を考えなければならぬ。

執行委員会の機能・組織構造の点については、ガバナンスの観点からすると、この追加された機能が十分に果たされているのか、また、現在の拡大された執行委員会のメンバー構成とそれぞれの役割は適切なのかということを見直すことが考えられる。評価報告書の指摘では、戦略的な機能と規格策定の監督機能を果たすうえでは、前者の機能は小さい組織の方が迅速に決定ができるのでメンバー構成は小さな組織とし、後者はより広範な参加のうえで検討をする方がよいとの見解を示していた。これはしかし、包括性と閉鎖性、迅速・効率性と透明性の問題を呈することから、バランスを要する課題である。

## E. 結論

本年度は、第 28 回 CCGP における論点からの教訓の導出と、今後コーデックスで議論される、作業管理の見直しに関連して、過去のコーデックス評価報告書の整理と関連するトピックの分析を開始した（これは今後の見直し作業の項目の議論を踏まえて再整理していく予定である）。また、国際シンポジウムの開催により、広い意味でのリスクコミュニケーションも展開した。

今回の第 28 回 CCGP では、議題の中身以前に、複数の議題で、CCGP の参加主体が、コーデックスが FAO・WHO の共同プログラムであり、規則的にも FAO/WHO の管轄下にあること、あるいはコーデックスの意思決定における総会や執行委員会と部会の関係性を理解せずに部会レベルで議論を進めてしまったために、様々な齟齬が生じたことが理解された。今後はこうしたことを繰り返さないためにも、CCGP の参加主体自らが掌握範囲や組織内外の関係性について認識することが肝要である。

また、コーデックス作業管理の見直しはコーデックス全体にもかかわる展開であることから、他の部会の研究を担当している研究者とも連携をとりつつ引き続きフォローをしていく必要がある。過去の議論の整理から、争点となっている点は、繰り返しの問題も多い。このため、以前の議論を踏まえ、状況変化に応じて変革が求められるのか、あるいは、すでに議論された結果を踏襲するのが正しいのか、検討していくことが重要である。

「政策の窓」は、大きな事件があるか、こうした見直しの機会にしか開かないので、こうした機会は十分に活用することが望まれる。

さらに、こうした国際的な議論が国内でも周知・還元されるよう、シンポジウム等による広い意味でのリスクコミュニケーションの展開も国内支持の確保上重要である。

## F. 健康危険情報

該当なし

## G. 研究発表

特になし

## 平成 26 年度添付資料リスト

### 1. コーデックスイベント関係配布資料

1-1 国際シンポジウム『食品安全規格の国際調和とその課題—コーデックス委員会の役割』  
趣旨・プログラム

1-2 基調講演 1 「Codex とは」

Ms. Annamaria Bruno 氏（コーデックス事務局）

1-3 基調講演 2 「タイにおけるコーデックス対応及び国内食品規格への適用」

Mr. Pisan Pongsapitch 氏（農業コモディティおよび食品規格基準局執行委員会副長官）

1-4 部会報告 1 「CCFA（コーデックス食品添加物部会）の動向」

阪本 和広 氏（農林水産省）

1-5 部会報告 2 「CCFH（コーデックス食品衛生部会）の動向」

豊福 肇 氏（山口大学 共同獣医学部教授）

2. 「コーデックス評価書を受けてコーデックスでとられた対応（第 26 回総会の勧告とその後のまとめ）」 研究協力者 浅田 玲加（東京大学 公共政策大学院 国際公共政策コース）、岩崎 舞（東京大学 公共政策大学院 法政策コース）、鬼頭 未沙子（東京大学 公共政策大学院 法政策コース）、分担研究者 松尾真紀子

## 国際シンポジウム

### 『食品安全規格の国際調和とその課題—コーデックス委員会の役割』

#### —趣旨—

食品安全の確保は重要課題である。食品がグローバルに流通し、輸入に依存する日本にとって、国内の管理体制やアプローチが国際的にも整合性をもつことは重要である。国際組織における国際規格策定の動き、TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）のような地域レベルでの展開、及び二国間での交渉等、様々な動きが活発化するなかで、WTO（世界貿易機関）のSPS協定（衛生植物検疫措置の適用に関する協定）において食品安全に関する国際規格と定められたコーデックス規格はますます重要になってきている。

しかしながら、コーデックス規格の内容についても、その作成過程についても、広く認識されているとは言い難い現状にある。そこで、本シンポジウムでは、実際にコーデックスの現場において活躍する、コーデックス事務局のアンナマリア・ブルーノ氏や、本年コーデックス副議長に日本から選出された辻山弥生氏等から、最新のコーデックスにおける活動やその課題の現状について紹介してもらうことにより、コーデックスの認知度を上げるとともに、日本にとってのコーデックスの意義に関して広く一般に周知することを目的とする。

#### —開催概要—

【日時】2014年11月8日（土） 9:30-12:30

【場所】東京大学本郷キャンパス 小柴ホール

【定員】170名前後

【言語】日本語・英語（同時通訳あり）

【参加対象者】産業界、消費者団体、一般消費者、学識経験者、学生等

【参加費】無料（公開）

【主催】厚生労働科学研究費補助金「国際食品規格策定プロセスを踏まえた食品衛生規制の国際化戦略に関する研究」、東京大学政策ビジョン研究センター、東京大学公共政策大学院

【後援】農林水産省

#### —プログラム—

全体司会進行：

松尾 真紀子（東京大学公共政策大学院・政策ビジョン研究センター特任研究員）

開会挨拶 9:30～9:35

豊福肇（山口大学 共同獣医学部 教授）

**基調講演 1** 9:35～10:10 （発表 25 分 質疑応答 10 分）

Ms. Annamaria Bruno（コーデックス事務局）

「Codex とは」

“Codex Alimentarius Commission”

**基調講演 2** 10:10～10:35 （発表 20 分 質疑応答 5 分）

辻山弥生（農林水産省調査官、コーデックス副議長）

「国際貿易交渉とコーデックス」

International Trade Negotiation and Codex

**基調講演 3** 10:35～11:00 （発表 20 分 質疑応答 5 分）

Mr. Pisan Pongsapitch（農業コモディティおよび食品規格基準局執行委員会副長官）

「タイにおけるコーデックス規格策定及び規格実施の経験」

Thailand Experience on Codex Standards Setting and Standards Implementation

アンケート回収 11:00～11:10

**各分会報告 1** 11:10～11:30 （発表 15 分 質疑応答 5 分）

阪本和広（農林水産省）

「CCFA（コーデックス食品添加物部会）の動向」

Current trends in the Codex Committee on Food Additives (CCFA)

**各分会報告 2** 11:30～11:50 （発表 15 分 質疑応答 5 分）

豊福肇（山口大学 共同獣医学部教授）

「CCFH（コーデックス食品衛生部会）の動向」

Update of activities in the Codex Committee on Food Hygiene (CCFH)

**パネルディスカッション** 11:50～12:20

モデレーター：

松尾真紀子（東京大学公共政策大学院、政策ビジョン研究センター特任研究員）

登壇者：

Ms. Annamaria Bruno（コーデックス事務局）

辻山弥生（農林水産省調査官、コーデックス副議長）

Mr. Pisan Pongsapitch（農業コモディティおよび食品規格基準局執行委員会副長官）

阪本和広（農林水産省）

豊福肇（山口大学 共同獣医学部教授）

閉会挨拶 12:20～12:25

豊福肇（山口大学 共同獣医学部教授）

International Symposium "International Harmonization  
of Food Standards - The Role of Codex Alimentarius  
Commission"  
Tokyo, 8 November 2014

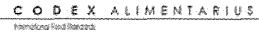
Codex Alimentarius  
Annamaria Bruno  
Codex Secretariat

Note: Please do not reuse/quote the content of this presentation. The views  
expressed in this presentation are those of Codex.



## Overview

- Codex overview
- Hot issues in recent years and present and future challenges
- Conclusion: keys to success of Codex



国際シンポジウム“食品安全規格の国際調和とその課題  
—コーデックス委員会の役割  
東京, 2014年11月8日

Codexとは  
Annamaria Bruno  
コーデックス事務局

※本資料をご使用・ご引用される場合は、必ずお問い合わせをお願いします  
※また、この資料に含まれる見解は免責事項であり、以下は主催者による原文の訳文であり、公式の訳文ではありません。必ず原文をご参照ください。

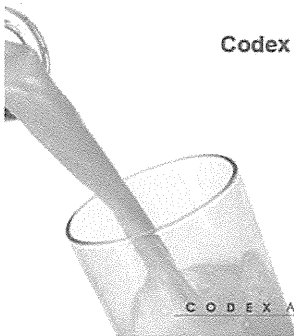


## 概要

- コーデックスの概要
- 近年のホットイシューと、現在そして将来への課題
- 結び: コーデックス委員会の成功への鍵

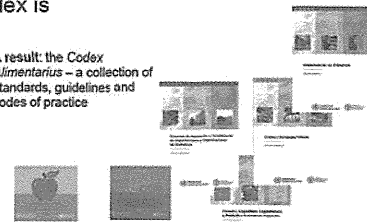


## Codex overview



## Codex is

A result: the Codex Alimentarius – a collection of standards, guidelines and codes of practice

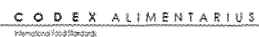


## コーデックスの概要



## コーデックスとは

その成果: "the Codex Alimentarius" –規格・基準、指針  
そして実施規範の集積





## Codex is

An intergovernmental structure and process to find a consensus on the texts that make up the Codex Alimentarius



C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards

## コーデックスとは

政府間組織であり、“the Codex Alimentarius”を構成する文書について、コンセンサスを模索するプロセスである。

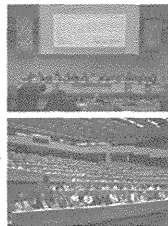


C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards

## Codex unites ...

Multiple partners in a common project to:

- Protect the health of consumers
- Ensure fair practices in the food trade
- Promote coordination of all food standards work undertaken by IGOs and INGOs
- Develop and maintain a collection of international food standards: the Codex Alimentarius

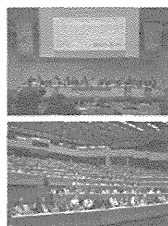


C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards

## コーデックスは、

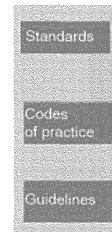
多様なパートナーと以下のような共通プロジェクトを行う

- 消費者の健康保護
- 公正な食品貿易の確保
- 政府間組織(IGO)や非政府間組織(INGO)による全ての食品規格・基準作業の協調推進
- 国際食品規格の集積 “the Codex Alimentarius”の策定と維持



C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards

## CODEX results



General (GFS, GSCTF, labelling, methods)  
Commodities/Group standards  
Residues

Hygiene  
Contamination  
Prevention

Principles  
Certification  
Inspection  
Risk analysis  
Sampling

C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards

## コーデックスの成果



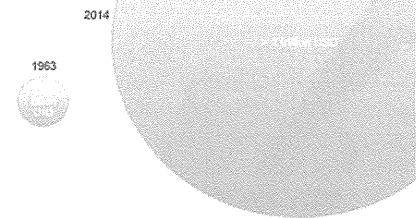
一般(GFSA, GSCTF, 表示, 手法)  
コモディティグループ 規格  
残留基準

衛生  
汚染  
予防

原則  
認証  
検査  
リスクアナリシス  
サンプリング

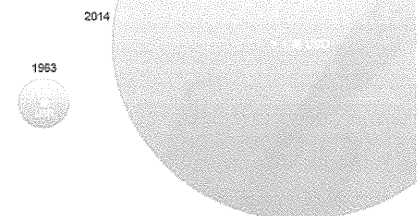
C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards

## Are Codex objectives still valid? Food trade trend



C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards

## コーデックスの目的はまだ有効か? 食品貿易の動向



C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards



The SPS agreement 

defines *International standards, guidelines and recommendations*:

"for food safety, the standards, guidelines and recommendations established by the Codex Alimentarius Commission relating to food additives, veterinary drug and pesticide residues, contaminants, methods of analysis and sampling, and codes and guidelines of hygienic practice"; (Annex A,3.a)

C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards

Codex standards

SPS

- hygiene
- microorganisms and toxins
- agrochemicals (residues)
- contaminants
- food additives
- methods of analysis and sampling

TBT

- all not covered by safety standards (labelling, product specifications, inspection, certification ...)

C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards

SPS協定は、 

国際規格・基準、指針そして 勸告 を定義:

"食品安全については、食品添加物、動物用医薬品、残留農薬、汚染物質、分析・サンプリング手法そして衛生基準の実施、範囲及び指針に関連する規格・基準、指針そして勸告"; (附属書A,3.a)

C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards

コーデックス規格・基準

SPS

- 衛生
- 微生物及び毒素
- 農薬(残留)
- 汚染物質
- 食品添加物
- 分析サンプリング手法

TBT

- 安全基準によってカバーされていないもの全て (表示, 製品仕様, 検査, 認証 ...)

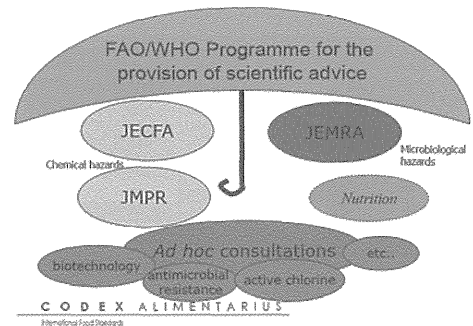
C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards

Role of science

- The food standards, guidelines and other recommendations of Codex Alimentarius shall be based on the principle of sound scientific analysis and evidence, involving a thorough review of all relevant information, in order that the standards assure the quality and safety of the food supply (CAC decision 1995)
- Since 1995 Risk Analysis has been implemented in Codex



C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards

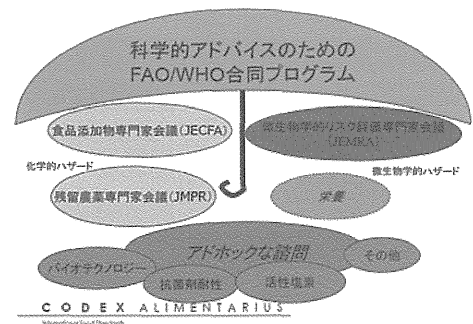


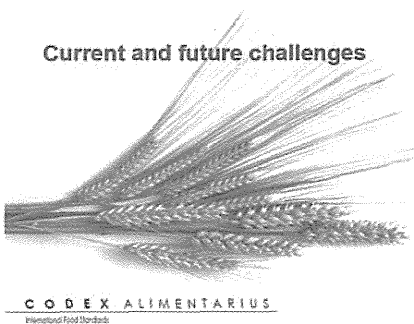
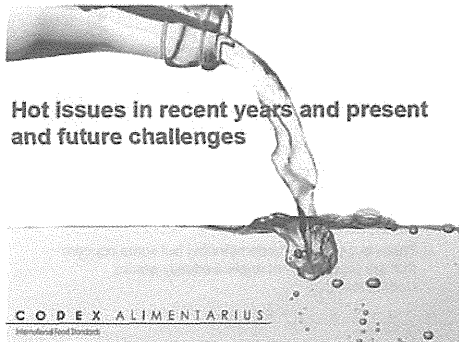
科学の役割

- コーデックスの食品規格・基準、指針その他の勸告は、規格・基準が食品供給の質や安全を確保するために、全ての関連情報のレビューを含む、堅固な科学的アナリシス及びエビデンスの原則に基づかなければならない(CAC決定 1995)
- 1995年より、リスクアナリシスはコーデックス委員会において実施されてきた



C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards





### Technical hot issues

- Growth promoters
- Processed cheese
- Chlorine
- Animal feeding
- Labelling of GMOs
- Revision of the Code of Ethics
- Note 161 in the GSFA
- ....



CODEX ALIMENTARIUS  
International Food Standards

### 技術的専門的なホットイシュー

- 成長促進物質
- プロセスチーズ
- 塩素剤
- 動物飼料
- 遺伝子組換え作物(GMOs)の表示
- 倫理規範の改訂
- GSFAの注釈161
- ....



CODEX ALIMENTARIUS  
International Food Standards

### Speed of standard development

- The Codex procedure allows to create a standard in one year
- Few standards move slowly but eventually get adopted (e.g. definition for fibre, oranges, risk analysis for governments) 5 – 10 years
- Very few don't move but also no consensus on stopping work > 10 years
- Some are held at step 8 (currently only one)
- Overall speed: 4.2 years for all work 3.5 years for food safety matters



CODEX ALIMENTARIUS  
International Food Standards

### 規格・基準策定のスピード

- コーデックスの手続では一年で規格・基準を策定することができる
- 進捗の遅い規格・基準もわずかにあるが、最終的には採択される(例:食物繊維の定義、オレンジに関する規格、政府のリスクアナリシス) 5~10年
- ごくわずかに全く進捗のないものもあるが、作業を停止するというコンセンサスもない10年以上
- いくつかの規格・基準はステップ8で留め置かれている(現在は一つのみ)
- 全体的なスピード:全ての作業について4.2年、食品安全に関わるものについて3.5年

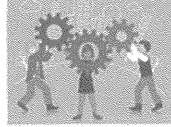


CODEX ALIMENTARIUS  
International Food Standards

## Standards management - improvements

- Joint Evaluation resulting in Critical Review function of CCEXEC
- Executive Committee developed guidance for:
  - Monitoring the standards setting process
  - Application of the Criteria for the Establishment of Work Priorities

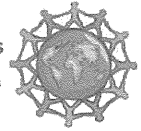
C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards



## Finding consensus

- Codex today works mainly by consensus
- Building consensus can take time
- Some votes in the past and recent present have been divisive
- It is the chairpersons responsibility to facilitate consensus and to rule when it has been reached
- Consensus in Codex does not have to be unanimity but there is no definition
- There is a common understanding but some concern that the concept is not applied equally across Committees

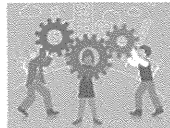
C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards



## 規格・基準策定作業・運営一改善点

- 執行委員会のクリティカル・レビュー機能に結び付いた共同評議書
- 執行委員会は以下のための指針を策定した。
  - 規格・基準設定プロセスの監視
  - 作業の優先順位決定のためのクライテリア適用

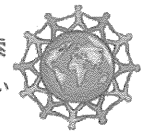
C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards



## コンセンサスの模索

- 今日コーデックスは主にコンセンサスに基づいて活動している
- コンセンサスの形成には時間がかかりうる
- 過去のいくつかと最近の投票は対立的であった
- コンセンサスの促進とその判断は議長長の責任である
- コーデックスにおけるコンセンサスは、満場一致である必要はないが定義がなされていない
- 一定の共通認識はあるが、コンセンサスの概念が部会間で同じように適用されていないという懸念も一部にある

C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards



## CAC on consensus

- Brochure for Chairs on how to apply the concept of consensus uniformly
- Use of a facilitator
- Satisfaction survey (including question on chairperson)
- Problematic issues to be brought to the CCEXEC and the informal meeting of chairs for appropriate action
- Convening an informal meeting of chairs
- Explore possibilities for developing a reference document for delegates on consensus building

C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards

## Ownership and Participation

Critical question in the 2002 Codex Evaluation (discussions in several sessions of the Commission on possible solutions)

Strategies to foster ownership and participation include:

- Best use of written comments
- Dynamic exchange outside physical meetings
- Reduce the number of sessions
- FAO and WHO development capacity activities in developing countries
- Co-hosting of Codex sessions should be continued
- Mentoring mechanisms through intra-regional cooperation
- Timely distribution of documents in the official languages

C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards



## 総会のコンセンサス

- 議長のための、コンセンサスの概念を統一的に適用する方法に関するパンフレット
- ファシリテーターの活用
- 満足度調査(議長に対する疑問を含む)
- 懸案については、適切な行動をとるために執行委員会と非公式議長間会合で議論
- 非公式議長間会合の開催
- 代表団のための、コンセンサス形成に関する参照文書作成の可能性の検討

C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards

## オーナーシップと参加

2002年のコーデックス評価書における重大な課題(総会で何らかの可能な解決策について審議)

オーナーシップと参加を強化する戦略は以下のものをきむ。

- 書面によるコメントの活用
- 物理的会合以外での活発な意見交換
- 会合数の削減
- 途上国におけるFAO及びWHOの能力開発活動
- コーデックス会合の共同開催を継続すべきこと
- 地域内協力を通じた助言メカニズム
- 時宜を得た公式言語での文書配布

C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards



## Participation how we have grown ...

- 1963 (CAC1): 30 countries and 120 delegates
- 2014 (CAC37): 171 Members, 28 Observers and more than 600 delegates
- Codex Members and Observers (as at October 2014)
  - 186 Members (185 Members countries and 1 Member Organization)
  - 224 Observers (52 IGOs, 157 NGOs, 15 UN)

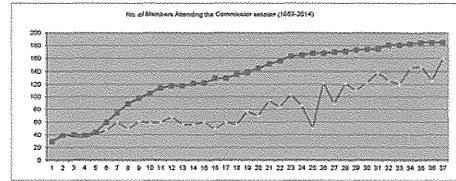
C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards

## 参加 どのように発展したか ...

- 1963 (第1回総会): 30の国と120名の代表
- 2014 (第37総会): 171の加盟国、28のオブザーバー、600名以上の代表
- コーデックスの加盟国とオブザーバー(2014年10月現在)
  - 186の加盟国(185の国と1の機関)
  - 224のオブザーバー(52の政府間機関、157のNGO、15の関連機関)

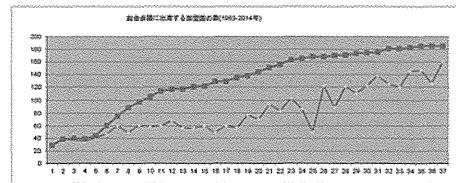
C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards

## No. of Members Attending the Commission sessions (1963-2014)



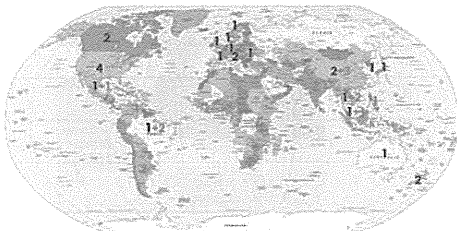
C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards

## 総会会議に出席する加盟国の数 (1963~2014年)



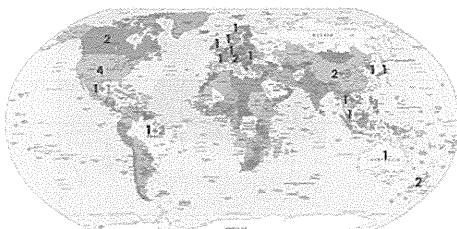
C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards

## Host governments + co-hosting



C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards

## 開催国+共同開催国



C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards



## Codex Trust Fund

### Some data

- 2003: launched (2004 first year of operation)
- 12 years duration with gradual progression to self-support (end in 2015)
- Entirely donor supported (US\$ 18,770,007 from 15 Member countries and the European Commission as at Dec 2013)
- Total eligible countries: 151 (between 2004-2013), 79 countries eligible for support in 2014 (99 countries graduated to end 2013)
- 1,942 participants from 134 countries to Codex meetings
- 705 participants supported to training courses

C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards



## コーデックス トラストファンド

### データ

- 2003年:設立(2004年運用開始)
- 段階的独立に向けて12年間運用(2015年に終了)
- 全て援助国による支援(2013年12月の時点で15の加盟国とECから1877万7千ドル)
- 全援助受入国: 151か国(2004~2013年) 2004年は79か国が援助受け入れ(99か国が2013年末までに卒業)
- 134か国から1942名がコーデックス会議に出席
- 705名の研修会への参加を援助

C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards

## Sustainability of scientific basis of the work of Codex

- To identify priorities at international level
- Definition of possible scope of the work and use to be given to results
- Harmonization of risk assessment methodologies based on the Codex principles for risk analysis
- Availability and quality of data
- Resources



C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards

## コーデックス作業の科学的根拠の持続可能性

- 国際レベルでの優先順位決定のため
- 成果における可能な作業範囲と利用に関する定義
- リスクアナリシスのためのコーデックス原則に基づくリスク評価方法の調和
- データの利用可能性と質
- 資金・人材、リソース



C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards

## Private standards

- Concern to many members as compliance/ certification was difficult, especially for developing countries.
- Need to see how private standards relate to Codex standards. Codex standards should be benchmarks for these private standards. International harmonization of food safety provisions should be based on Codex standards.
- Forum to address the legal implications of private standards is the WTO SPS committee.
- Study to analyse the role, cost and benefits of private standards especially with respect to the impact on developing countries

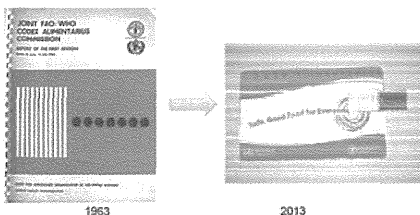
C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards

## プライベートスタンダード

- 多くの加盟国、特に途上国にとって、遵守/認証が困難であるという懸念
- プライベートスタンダードがいかにコーデックス規格・基準と関係しているかを調査する必要性。コーデックス規格・基準はこれらのプライベートスタンダードの基準になるべき。食品安全規定に関する国際的な協議はコーデックス規格・基準に基づくべき。
- プライベートスタンダードの法的含意を扱うフォーラムはWTO/SPS委員会。
- 特に途上国への影響という面でのプライベートスタンダードの役割、コスト、便益を分析するための調査。

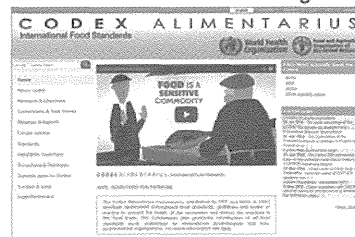
C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards

## Advancement in IT technologies...



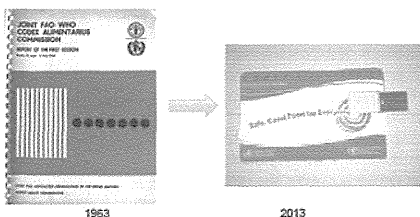
C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards

## Advancement in IT technologies...



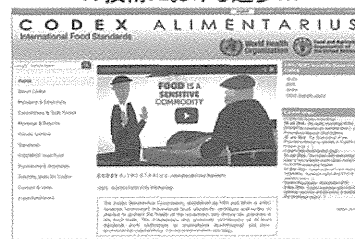
C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards

## IT技術における進歩...



C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards

## IT技術における進歩...

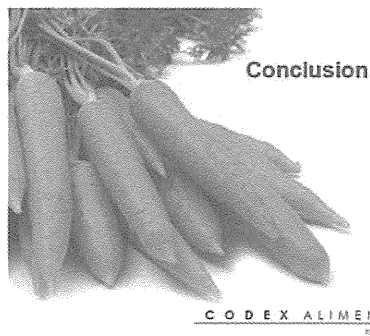


C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards

## Implementation of standards and monitoring

- FAO/WHO capacity development programmes
- Acceptance procedure eliminated 2005
- FAO/WHO Coordinating Committees review use/non-use of Codex Standards based on replies from members of the region.

C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards



## 規格・基準の実施と監視

- FAO/WHOの能力開発プログラム
- 2005年、Acceptance procedureを削除
- 地域調整部会が地域内の加盟国の回答に基づき、コーデックス規格・基準の使用/不使用をレビュー

C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards



## Keys to the success of Codex

- Member driven
- Consensus decisions
- Transparency – website – observers
- Flexible procedure allowing all to comment
- Science/ risk based food safety standards



C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards

Arigato

C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards

## コーデックス成功への鍵

- 加盟国主導
- コンセンサスによる決定
- 透明性—ウェブサイト—オブザーバー
- 全員がコメントすることのできる柔軟な手続
- 科学/リスクに基づいた食品安全規格・基準




C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards

ありがとうございます

C O D E X A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards



**CODEX ALIMENTARIUS**

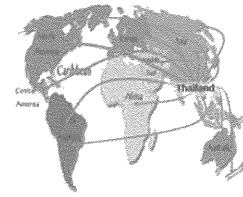


## Thailand Experience on Codex Standards Setting and Standards Implementation

Mr. Pison Pongrapich  
Deputy Secretary General  
National Bureau of Agricultural Commodity and Food Standards  
Ministry of Agriculture and Cooperatives, Thailand

Note: Please do not reuse/quide without author's permission. The views expressed in this presentation are author's own.  
Symposium on "International Harmonization of Food Standard", 6<sup>th</sup> November 2014  
Koshida Hall, University of Tokyo, Tokyo, Organized by University of Tokyo.


## Thailand Is A Kitchen of the World



Thailand produces food for domestic consumption and for international trade.

3

**CODEX ALIMENTARIUS**

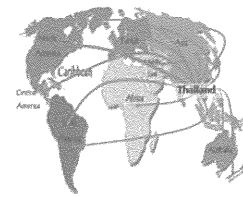


## タイにおけるコーデックス規格策定及び規格実施の経験

Mr. Pison Pongrapich  
農業コモディティおよび食品規格基準局執行委員会副長官  
農業・協同組合省、タイ

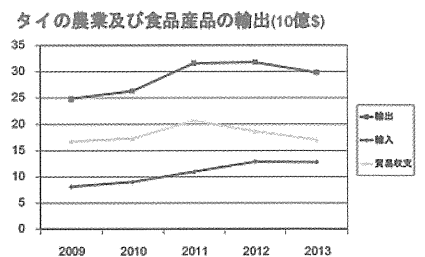
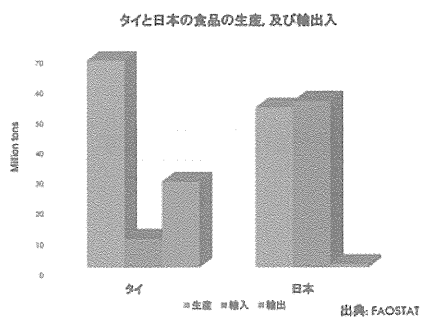
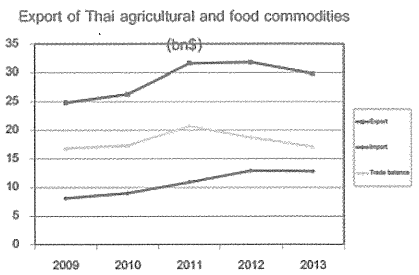
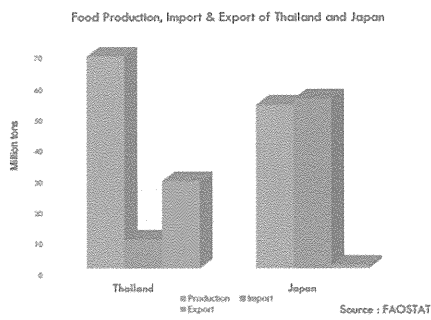
※本資料のご活用・ご引用される場合は、ご本人のご承認を得るようお願い申し上げます。  
※本資料に含まれる情報は当委員会のもので、  
※本資料は主催者による原文の複製であり、公式の訳ではありません。必ず原文をご参照ください。  
国際シンポジウム「食品安全規格の国際調和とその課題—コーデックス委員会の役割」2014年11月8日  
小栗ホール、東京大学、東京、東京大学主催

## タイは世界の台所

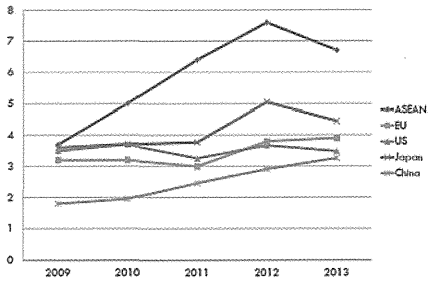


タイは国内消費向け、国際貿易向けの食品を生産している。

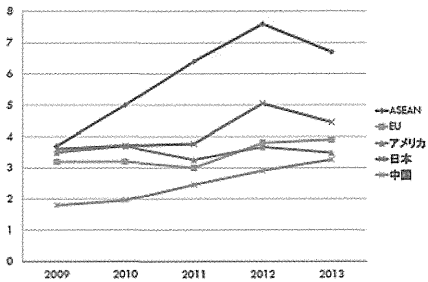
4



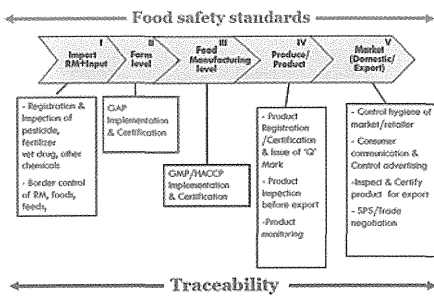
Export of Thai agricultural and food commodities (bn\$)



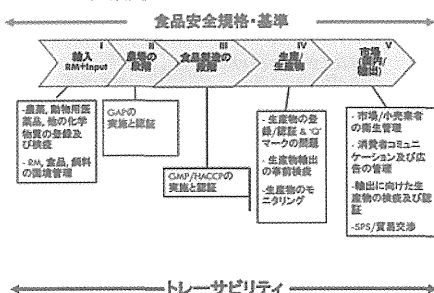
タイの農作物及び食品産品の輸出 (10億\$)



### Road Map of Food safety

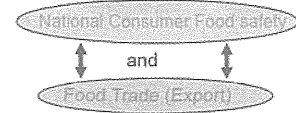


### 食品安全のロードマップ



### Food Control System in Thailand

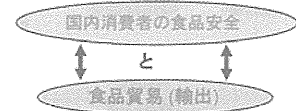
The Balancing between



\* Single policy - Single standard

### タイにおける食管理システム

2つの間のバランス



\* 1つの政策・方針 - 1つの規格・基準

### Food Quality and Safety Strategy

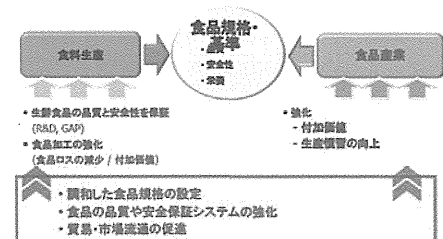
Principle: Ensuring high quality and safe food to protect consumer health and to facilitate domestic/international trade



The National Food Committee, march 2011

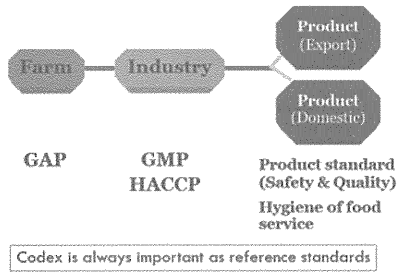
### 食品の品質と安全の戦略

原則: 消費者の健康を守り、国内/国際の貿易を促進するため、高品質で安全な食品の確保

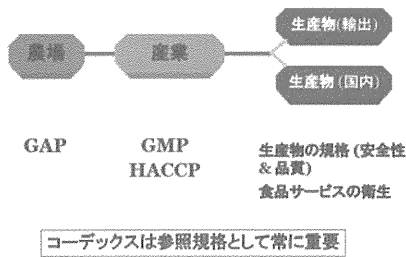


The National Food Committee, march 2011

# STANDARDS FOR FOOD CHAIN



# フードチェーンに関する規格・基準



# Food Quality and Safety: Key Factors



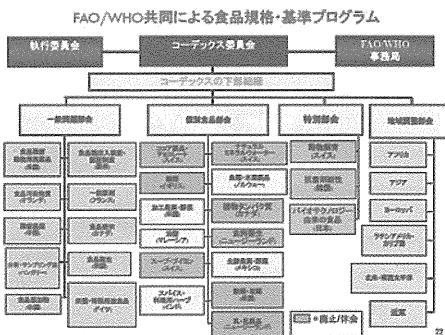
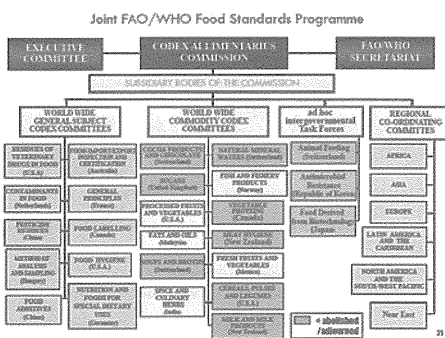
- National Standard Development
- Standards implementation/enforcement
- Application of risk analysis principles
- Education and communication (governments, academia, industries, farmers, consumers)
- Active participation in Codex and other international meetings



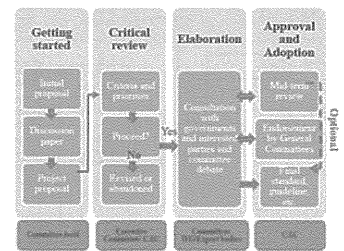
# 食品の質と安全性: 鍵となる要因



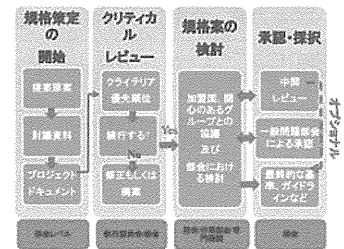
- 国の規格・基準の策定
- 規格・基準の実施/施行
- リスクアナリシス原則の適用
- 教育とコミュニケーション (政府, 学界, 業界, 農家, 消費者)
- コーデックスや, その他の国際会議への積極的な参加



# Codex Standard Setting Procedure



# コーデックス規格・基準の策定プロセス





# Thailand and Codex

- Codex established since 1963
- Year 2013 is the Codex Golden Jubilee Year
- Thailand is one of 30 countries that became the member of Codex since the establishment in 1963
- Thailand Codex Contact Point also celebrated Codex Golden Jubilee in Thailand on 28 May 2013

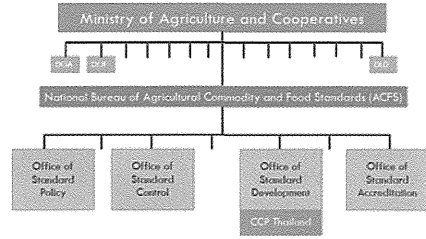


## タイとコーデックス委員会

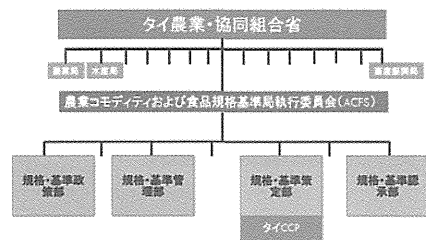
- コーデックス委員会は1963年に設立
- 2013年にコーデックス委員会は50周年を迎えた
- タイは1963年の設立時にコーデックスに加盟した30か国のひとつ
- 2013年5月28日、タイのコーデックスコンタクトポイントも50周年を記念した



## Codex Contact Point of Thailand



## タイのコーデックスコンタクトポイント(CCP)

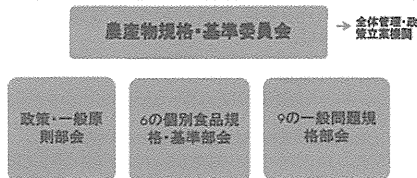


### Working Process for Codex Standard Setting of Thai CCP



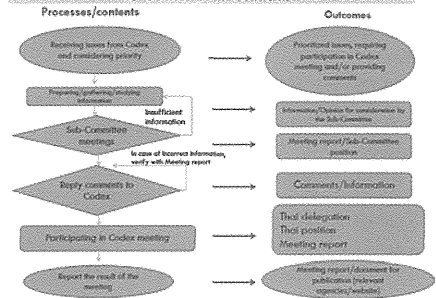
- Members of Sub-Committees**
- Governments (Agriculture, Health, Trade, Consumer Protection)
  - Academics/Experts
  - Industries
  - CCP Thailand as Secretariat

### タイCCPのコーデックス規格・基準立案のための作業プロセス



- 部会のメンバー**
- 関係省庁(農業、保健、貿易、消費者保護)
  - 学会/専門家
  - 産業界
  - 事務局としてタイCCP

### Thailand Working Process for Consideration of Codex Draft Standard



### タイにおけるコーデックス規格・基準草案検討のための作業プロセス

